



TAKE OFF press

TAKEO Future Frontier

【校是】質実剛健 報恩感謝

佐賀県立武雄高等学校

校長通信 NO. 17 R6. 12. 01

文責 校長 下村 昌弘

E-Mail shimomura-masahiro@education.saga.jp



学校 HP

動物的な本能には人間らしい知性でー「好き」「嫌い」から「好き」「フツー」へ転換ー
あの人は苦手だなあとか、嫌だなあとか、そういう感情は誰にでもあるだろう。自分が好きな相手は概ね相手も自分のことを好意的に見てくれていそうだし、逆もまた然り。

私も人に対する苦手感や嫌悪感が全くないわけではないが、できるだけ相手に対して否定的な感情を持たないようにしている。意識しすぎると慢性的なストレスになるからだ。

他人に対して好きとか嫌いとか瞬時にそうした感情が動くのは日常生活でよくあること。好き嫌いの感情が働くのはいわば動物的な本能だ。それは生命への危険性があるのかないのか、自分にとって敵か味方か、などを迅速に判断している証拠だと何かの本で読んだことがある。だから、そういう好き嫌いの感覚自体は動物として当然で何の問題もない。



問題があるとすれば、そのあと。知性ある人間としてそこにどう対処すればいいのかわかる。 “好き” はともかく “嫌い” の感覚はやはり精神衛生上好ましくない。

先述のとおり人は苦手な相手と対峙した時、まず本能的にその人を “敵だ” と判断し、動物として身を守るために “戦う” もしくは “逃げる” という行動を選択しようとする。

しかし、私たちは通常お互いに命を奪い合う社会にいるわけではない。だから敵か味方かを明確に区別する必要はないわけだ。そこで「好き」か「嫌い」かではなく「好き」か「フツー」かで判断すればいいことになる。これが人としての知性の働かせどころである。

それでも相手に対する嫌悪感が拭いきれない場合「好き・嫌い」という気持ちから一旦目をそらして「これは××するためだから」とその目的を自分に言い聞かせるようにする。

また、苦手な人が目の前にいない時について「あの人は何故あんなことを私に言ったのだろう」と繰り返し考えてしまいがち。しかし、他人と過去は変えられない。他人の考えは所詮他人の持ち物。自分の頭の中には答えはない。自分の生活時間を削ってでも考えるべき大切な人なのかどうか、自分に問い直してみるといい。

どうせなら、自分にとって大切と思える人（友達、好きな作家やミュージシャンなど）が発したお気に入りの言葉を頭の中に繰り返しの方が断然人生は輝いて来るだろう。

人間関係に悩んでいるあなた、この思考法、ぜひお試しあれ。きつとうまくいくから。

平川丸いよいよ船出！ ー新生徒会長抱負を語るー

後期生徒会長選挙で平川蒼大^{そうだい}さんが当選し、11月から新生徒会が発足した。そこで平川会長と副会長の西山蒼太郎^{そうたろう}さんにその抱負を聞いた。

公約は①フリーウェアデイを充実したものにする、②服装検査を廃止する、③他校の生徒会との交流を促進するの3本。

より自分たちを主体とした学校生活を送りたいという意気込



みを感じた。両名からは「とにかく学校全体で一緒にやっていきたい」「他校との交流は初めてのことなので興味を持ってもらえるように発信していく」と声を弾ませた。

生徒会もこれまでの生徒会や先輩の姿勢を引き継ぎながら味を出し、学校として着実に進化していると感じる。伝統とは変わることへの挑戦でもある。頑張れ、平川丸！

家具づくりへのこだわり —レグナテック、佐賀から世界へ—

先月末、佐賀市諸富にある家具メーカー「レグナテック」の代表取締役社長^{かばしま}樺島賢吾氏に「世界と日本と私たち—海外に出ると人生が変わる—」という演題でご講演いただいた。



氏は甲子園の出場経験もお持ちで高校・大学と野球に専念し、将来は指導者としての道を考えていたそうだ。そこで「なぜ家具製造販売の道に入ることになったのか、そして今何を考えているのか」を中心にお話しになった。

レグナテックは国内の官公庁はもとより国内の大手企業や世界 15 か国に販路を開拓しておられる、家具づくりへのこだわりを持った企業だ。ホームページを見ると家具を大切にし、人を大切にし、地域や自然を大切にする思いがよく伝わってくる。

「高校時代に思い描いていた将来の夢とは全く異なる今を生きているが、その時その時の判断が自分の原型を造っている」「毎日一生懸命やっていると周りの人が運を持ってきてくれる」と日々の積み重ねこそが重要と^{おっしゃ}仰った。

本校生の中には海外の大学に直接進学する道を考えている人がいる。樺島氏もほとんど英語の勉強もしていなかったが、思い切ってフィリピンの大学に短期留学されたという。今では海外出張を多数こなし、20 か国以上とつながる家具メーカーとなるまでになった。

予定調和的な未来ではなく予想もしなかった自分とのめぐり逢いの魅力がそこにはある。

自転車“ながら運転ダメ” —11月から道路交通法改正—

自転車に関する交通事故が増えている。法律が改正され携帯電話やスマートホンを使いながらの走行が厳罰化となった。26年を目途に自転車運転にも車やオートバイと同じように青切符(反則金)の導入が予定されている。

対象となる行為は「信号無視」「一時不停止」「右側通行や歩道通行」「遮断踏切への立ち入り」「傘さし運転やイヤホンの使用」など。

【当面の主な予定 (12月前半)】
2日(月) 月曜セミナー (1・2年)
4日(水) 育ちあい講座 (1年) 9日、11日、12日も 海外研修オンライン打合せ (該当者)
5日(木) オランダオンライン交流
6日(金) クラスマッチ (1・2年)
7日(土) 土セミ (全学年)
9日(月) 月セミ (1・2年)
12日(木) オランダオンライン交流
14日(土) 全館停電 (15日まで)

こうした法改正に先立ち昨年からは自転車用のヘルメットの着用が努力義務化された。「まだ着用しなくてもいい」ではなく「努力しなければならない」と主体的に考えてほしい。

(閑人閑話) マラソンは修行だ。とうとうわけが先日福岡マラソンを走った。天神を出発し、糸島半島を半周するコース。▼後半、九州大学を折り返すあたりから坂道の洗礼が始まる。この後半を攻略すべく事前の現地トレーニングを行ったが、その時も両足が痙攣し、完全にガス欠に。最後は一步も走れなくなった。▼その轍(こ)を踏まぬよう、練習では下半身の筋トレを増やし、本番では給水や給食を計画的に行った。▼しかし結果は4時間20分、目標のサブ4まではほど遠かった。ラスト10キロは苦行以外の何物でもなかった。ゴール後もひどい筋肉痛でもうフルは止めた方がいいのかもという思いが行き来する。▼それでも一週間ほどで完全に痛みが引くとまた次はもっといい走りができるのではないかと馬鹿な思いが湧き上がる。年甲斐もなく。▼「少なくとも最後まで歩かなかつた」。これを目標に始めたフルマラソン。本当に苦しい。しかしそれを乗り越えた後に来る暴力的な疲労感と何物にも代えがたい達成感。▼人との競争ではない。自分が想定したラインが達成できたかどうか。あくまで基準は自分。それが楽しい。本来学びとはそういうものであるはずだ。(昌)